



補償コンサルタント情報コミュニケーション誌

補償ニニコニ



本社 / 〒454-0011 名古屋市中川区山王一丁目8番28号
TEL : 052-331-5356 FAX : 052-331-4010
支店 / 岐阜、三重、豊田、東三河、西三河、稲沢、一宮、関東、東北、福島、仙台
営業所 / 静岡、関西、伊勢
URL https://www.shinnichi.co.jp E-mail : shinnichi@shinnichi.co.jp

編集者
内田 貢朗

IS09001:2015

IS027001:2013

地籍調査勉強会

令和元年を迎え、台風15号は9月8日から9日にかけて三浦半島を通過し、9日早朝千葉市付近に上陸しました。この台風では最大60メートル級の暴風が吹き荒れ、屋根は吹き飛ばされ窓ガラスも割れ、また更に1時間あたり50ミリ（局地的には80ミリ）を超える大雨を観測し、千葉県内では2千本の電柱が倒壊し、20万軒で停電となる被害をもたらしました。

そのため、復旧には電力会社と自衛隊が倒木取除き作業に全力で対応したものの、1週間を経過しても6万軒、10日経っても、尚、4万軒以上

の住宅で停電状態が継続することになりました。また、その1ヶ月後には台風19号が再び千葉県を含め、中部、関東、東北の各地を縦断し、千曲川など71河川の140ヶ所で堤防が決壊し大規模な洪水被害及び停電が各地で発生することとなりました。

最近では、地震、台風、集中豪雨等による自然災害が、大規模化しており、何時、何処で、どんな被害をもたらすかは予測困難となつています。この地方でも、伊勢湾台風規模の台風や、かつてより懸念されている東南海地震は何時おきても不思議ではなく、その危険性は非常に高いと言われている。

台風や地震等の発生に、理屈の上ではその危険性を理解しているとはいえ、やはり他人事は明日は我が身との認識にはなかなか成り切れていないのが正直なところかもしれません。

東日本大震災や九州熊本地震、北海道胆振東部地震、また愛媛、岡山、広島県各地を襲った西日本集中豪雨の復興業務では、各被害地とも地籍調査が進んでいたため境界復元等復興事業進捗には大きな手掛りとなったと聞いています。

地籍調査事業自体、中部では東北や九州に比較

曳家工法について

平成28年度より曳家工法の算定要領が全国統一されました。

大きな変更は非木造建物の曳家係数及び単価が無くなったことで、曳家工事費は、専門業者の見積りを徴収することとなりました。

中部では、これまでは木造、非木造の曳家工事については、中部独自の曳家工事移転料積算基準があり、曳家移転工法案により曳距離等を求めれば、再築工法で算定した数量を利用し、曳家係数及び単価を用いて曳家工事費を算定することが可能でした。

新要領では、木造建物については、以前と同様に曳家係数を用いて曳家工事費を算定することが可能でした。

曳家係数を用いて曳家工事費を算定することが可能でした。

曳家係数を用いて曳家工事費を算定することが可能でした。

曳家係数を用いて曳家工事費を算定することが可能でした。

曳家係数を用いて曳家工事費を算定することが可能でした。

曳家係数を用いて曳家工事費を算定することが可能でした。

曳家係数を用いて曳家工事費を算定することが可能でした。

曳家係数を用いて曳家工事費を算定することが可能でした。

曳家係数を用いて曳家工事費を算定することが可能でした。

曳家係数を用いて曳家工事費を算定することが可能でした。

曳家係数を用いて曳家工事費を算定することが可能でした。

建物移転請負工事契約に要する費用と、諸経費について

建物移転請負工事契約に要する費用について話

建物移転請負工事契約に要する費用について話

建物移転請負工事契約に要する費用について話

建物移転請負工事契約に要する費用について話

建物移転請負工事契約に要する費用について話

建物移転請負工事契約に要する費用について話

建物移転請負工事契約に要する費用について話

建物移転請負工事契約に要する費用について話

建物移転請負工事契約に要する費用について話

建物移転請負工事契約に要する費用について話

建物移転請負工事契約に要する費用について話

建物移転請負工事契約に要する費用について話

建物移転請負工事契約に要する費用について話

建物移転請負工事契約に要する費用について話

建物移転請負工事契約に要する費用について話

建物移転請負工事契約に要する費用について話

建物移転請負工事契約に要する費用について話

建物移転請負工事契約に要する費用について話

建物移転請負工事契約に要する費用について話

建物移転請負工事契約に要する費用について話

建物移転請負工事契約に要する費用について話

建物移転請負工事契約に要する費用について話

建物移転請負工事契約に要する費用について話

建物移転請負工事契約に要する費用について話

かまいたよりし

25



断水の経験

台風19号により、私もプチ被災者となりました。現在、福島県に復興の業務（CM）で単身赴任しております。

10月12日（土）の夜中から雨風が激しくなり、窓から覗くと外はまるでガソリンスタンドに置いてある洗車機の中にいるようでした。一夜明け、

日曜日には午前中から晴れ間も見え、台風が過ぎ去った後で浸水もなく、電気、ガス、水道も使えたため、何ともなかったことに安堵しました。

その日の午前中は食事、洗濯をいつもどおり行いました。

少し異変に気づいたのは、昼ごろに蛇口をひねった時、水の出方がかなり弱くなったからです。

その時は、もしかしたらどこかで断水しているため、水量の調整でもしているのかなと思っただけでした。その後、午後

に出かけたところ、近くの川沿いの道に土砂があらこちらで堆積しているのを見ました。

また、その周辺の家屋では家から土砂をかき出しているようでした。その時初めて私は自分のアパートに割と近いところで浸水していたことを知りました。

夕方になり、お風呂に

お湯を張ろうと給湯器のスイッチを入れたのですが、給湯器は全く作動しません。蛇口をひねっても水が出なくなりました。

インターネットで調べたら、自分が住んでいる相馬市全体が断水していることを知り、愕然としました。

とりあえず風呂に入ろうと思い近くの温泉へ行ったら入浴客がいっぱい、体を洗うのに1時間半ほどかかりました。通常は30分くらいです。

それから、翌日の給水車で水が配られていることを知り、ホームセンターに水タンクを買いに行きました。

また、水がなくて調理しなくても食事が出来るようにとパン、惣菜等を買った。スーパーに行きま

したが、どこも見事に品物がなく落胆しました。対応が後手後手に廻っています。

この時気づいたのは、リスク管理のことでした。普段業務ではリスク

管理を気にしていたのですが、まさか自分自身の生活でこのような事が起こるとは想像もしていませんでした。

日頃から、いざという時に備えて水タンクや防災グッズを用意しておくことや、台風が近づいて

状況等も見聞きしました。今回は自分自身の事でも日頃からリスク管理が大切であることを痛感しました。改めて、水に対する感謝と恐れの気持ちでいっぱいです。（S・D）



復興業務も終息へ

平成25年6月より携わった釜石市の復興事業も6年4ヶ月となり、

も最終章を迎えています。過去のミニコミの繰り返しになりますが、改めて振り返ってみたいと思います。

【市の土地利用方針】釜石市では、被災した

地区を21（市街地5、漁業集落16）に分類し、地区の意向や地区が

おかれている状況を踏まえて「安全確保」「住まいの再建」「避難のしく

みづくり」を3つの柱に復興まちづくり基本計画の策定を行っていま

す。また、復興事業について「防災集団移転促進事業」「津波復興拠点整備事業」「区画整理事業」

「漁業集落防災機能強化事業」等、それぞれの地

区の特性や実情に応じた事業を実施しています。【担当地区（東部地区）】

東部地区は釜石港の北西側に位置し、古くから発展した市街地で狭い敷地に住宅や店舗などが混在・密集していたため津

波により甚大な被害を受けました。

釜石の思い出

私が釜石市に赴任して6年半が過ぎました。

振り返って見れば、私が東日本震災復興支援業務に携わるきっかけは、

電子基準点のデータで得た旧座標から新座標への座標補正パラメータによ

る、街区基準点等の座標補正及び検証測量業務に携わった経験からでした。その業務は、青森県か

ら岐阜県に至る震災後の地殻変動に係る業務であり、私が担当した地区は青森県の青森市、むつ市、弘前市、五所川原市、

産業用地や商業地、公園として利用します。

【進捗状況】東部地区については、移転が遅れた箇所以外は10月末に工事は完了し

その後、当社の担当業務を実施する事となり、年内に完了予定です。【最後に】

6年半、長くもあり短くもあり、見知らぬ土

地にきて、たくさんの人と出会い同じ復興への思いを持って過ごせたことは、貴重な経験でした。

来年の事はまだわかりませんが、釜石での経験を活かして行くつもりです。関係者の皆様本当に

お世話になりました。どうもありがとうございました。（J・K）



から最も印象に残っているのが「釜石祭り」です。私は神輿の担ぎ手として6年前から毎年参加させていただいています。

6年前は震災の影響で担ぎ手が少なかったため、何度も交代して担いだ記憶があります。今年は9年ぶりに見事復活した六角型の大神輿を担ぐことができました。

復活した大神輿を担ぎながら見渡す釜石の街並みは、6年半前の震災後の姿から見事に復興し賑わいを取り戻しています。

釜石市は私の第二の故郷です。是非、皆さんも復活した釜石を見に来てください。（M・K）

後編 集

今年は、台風と豪雨等で自然災害の多い年でした。その傷跡が残ったまま残り二ヶ月となりました。

復興・復興が少しでも早く進むことを願わざるを得ません。

当社は、11月6日に「創業50周年」を迎え

ました。この記念すべき50年という節目の年を迎えることができました

のも、これまで様々な形で当社を支えてくださった皆様のおかげと心より感謝いたしております。

これからの50年においても、当社の経営理念である「奉仕に徹し、一歩、一歩、・・・また一歩」のもと、社員一同

「新日、新時代」に向けて、「ワンチーム」とな

って総合建設コンサルタ

ントとしての技術力向上に努め、皆様のお役に立

てるように更なる努力を

続けてまいりますので、

おかげ様で50周年!!
新日新時代へ